

令和 7 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立緑小学校
校長名	浮津 あゆみ

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・学年ごとに各教科の状況を見ると、第 6 学年社会科の「思考・判断・表現」を除き、すべての項目で全国平均値を上回っている。また、墨田区が設定している目標値についても、第 4 学年理科の「知識・技能」を除き、達成している。 ・特に国語科においては、2～5 年生の「思考・判断・表現」の項目で、すべての学年が目標値を 5 ポイント以上上回っており、校内研究で継続的に国語に取り組んできた成果が表れているといえる。 ・2 年生・3 年生に関しては、二教科のほぼすべての項目で墨田区平均を超えており、学力面での安定した成果が見られる。加えて、意識調査における「学校やクラスのきまりを守っていますか」という質問に対する肯定率が、両学年とも全国平均を 10 ポイント以上上回っており、授業に集中できる良好な学習環境が整っていることがうかがえる。	・第 4 学年の理科では、知識・技能、思考・判断・表現のいずれも区の平均を 3.0 ポイント以上下回っている。全国平均は上回っているものの、目標値には届いておらず、課題が見られる。 ・第 2 学年、4 学年、5 学年とも共通して、「図形」の正答率が全国平均値を 3.0 以上下回っている。第 2 学年は、「立体の面」、4 学年は「正三角形の作図」、第 5 学年「ひし形の作図」がいずれも目標値を下回るなど、「図形」の問題に苦手意識が見られる。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・高学年を中心に「学校での日々の授業の中で、自分は人間として成長したな、少し大人になれたな、と感じることがありますか」という質問が全国平均を大きく上回っている。一人一人のよい点を積極的に活かす個別最適な学び効果的に行われていることにより自己肯定感が上げられていると考えられる。 ・全学年で「あなたは、学校生活の中で他の人が発言したり、発表したりするときに、質問をし	・学習状況調査の結果が C、D 層の児童を中心に自己肯定感が低い傾向が見られ、特に「自分のいいところを、いくつか言える」「ものごとを最後までやりぬく」「ものごとを行うとき、次に何をした方がいいか自分なりに考えて、行動する」といった質問事項において、肯定率が顕著に低いため非認知能力向上を目指す。 ・どの学年も「あなたの気持ちを分かってくれる友だちがいますか」という質問において高

ていますか」の問いについての肯定率が全国平均を上回っている。このことから、友達の話に関心を寄せて聞き、質問し合える関係性が構築できていると考えられる。	い肯定率を示しているものの、「たぶんいない」「一人もいない」と回答している児童も見られる。そのように感じている児童を孤立させないよう積極的に言葉掛けを行い、支援していく。
--	--

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・児童の「もっと知りたい」「やってみたい」「できるようにになりたい」といった思いを大切にした授業づくりを進めたことで、見通しをもって主体的に学習に取り組む児童が増えてきている。これにより、一斉一律の授業だけでなく、課題を明確にし、友達と協力して課題を解決する喜びを味わえる学びの場が広がっている。今後も、児童の意欲を引き出す言葉がけや支援を通して、協働的な学びをさらに充実させていく。	・家庭・地域の協力は大変手厚い。整えられた環境の中で、児童一人一人が自ら考え、友達と協働しながら学びを深めていけるよう、ICTを活用した意識的な学びの場の設定を継続して行っていくことが求められる。今後は、個人差を縮めるための具体的な支援策や指導方法の工夫をさらに進め、すべての児童が学ぶ喜びを実感できる教育環境の充実を図っていく。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 6年間を見通した朝の時間の活用

- ① 8時30分から8時40分までの10分間を学力向上に向けた朝学習の時間として行う。
- ② 火曜日・木曜日には、漢字や計算などの基礎的な学力の向上を図る学習活動を行い、繰り返しの学習によって確かな学力の定着を目指している。「よむYOMUワークシート」「ふりかえりシート」を活用する。
- ③ 毎週水曜日には、読書活動を行う。月に1回「MBC7」による読み聞かせを活用し、他に児童が自分の興味のある本に向き合う読書の時間を設けている。読書を通じて、児童の感性や思考力を育むことを目的としている。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」へ向けた授業改善

- ① 授業において、思考する時間を大切にし、グループ、ペアで自分の考えを表現したり他の考えに触れたりして、自分の考えを広げたり深めたりする。「まとめ・振り返り」を行い、子供の「分かる」を確認し、定着を図る。**(生きて働く、知識・技能の習得)**
- ② ICT機器(タブレット)を効果的に活用し、児童の学習意欲を高めるとともに、学力の向上につなげている。児童が自ら考え、協働的に学びを深めていけるような授業づくりを継続的に行う。
- ③ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるため。校内研究やOJTを通して教職員の授業力向上を図る。

(3) 保護者地域と連携した家庭の学習

高学年では、自主学習ノートを推進し、今日の授業の復習、明日の授業の予習を行ったり、自分の課題を解決したりする。学習習慣の定着のための機会として位置付ける。

低学年では、日々の学習の定着を図るために、反復学習を主として行う。

3 「令和8年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・各教科、各観点で、目標値を上回るようにする。
- ・各教科の活用問題において、目標値を5ポイント以上、上回るようにする。
- ・記述式の問題において、無回答をなくし、目標値を上回るようにする。